

令和7年度 保育の自己評価 明応こども園

「保育所では保育の質の向上を図るため、保育計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該こども園の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない」と保育指針に明記されています。これに基づき明応こども園では、以下の通り保育士自己評価を実施しましたので公表します。

1. 評価期間 令和8年4月20日(月)から4月24日(金)
2. 対象者 令和7年度当園勤務のすべての職員28名(保育士・調理員)
3. 評価方法 自己評価チェックシート(Googleフォーム)にて実施し、年度の評価と来年度への課題を明確化し、その後職員会議で共有する。
4. 評価基準 Aよくできた Bほぼできた Cもう少し D改善が必要

保育理念・目標・計画			
内 容		評価	特記事項
1	園の保育方針を理解している	A	
2	クラスの年間保育目標を立てている	B	
3	担任間で話し合っ保育目標を立てている	B	
4	子どもの発達に合わせて指導計画を立てている	B	
5	自分の保育を振り返り、向上や改善に努めている	B	
保育の内容・環境構成			
内 容		評価	特記事項
1	保育のねらいや内容が達成されている	B	
2	子どもの思いを受け止め、その思いを実現できるように努めている	B	
3	子ども達が楽しく遊べる環境を整えている	B	
4	一人ひとりの健康状態を把握している	A	
5	子どものやりたいに向き合っている	A	
園内の組織・役割分担			
内 容		評価	特記事項
1	職員間の連携がとれている	A	
2	職員間で報告・連絡・相談ができている	B	
3	会議やミーティングで自分の意見が言える	B	
4	自分に与えられた役割を自覚して責任をもってこなしている	A	
5	研修会に参加して資質向上に努めている	B	
家庭・保護者・地域との連携			
内 容		評価	特記事項
1	保護者には丁寧な言葉遣いと気持ちの良い対応を心がけている	A	
2	園での子どもの様子を保護者に伝えている	A	
3	家庭との連携を図るように努めている	A	
4	子育ての悩みや相談には保護者と一緒に考えている	B	
5	他園や小学校、関係機関との連携を行っている	C	
事務管理・自己管理			
内 容		評価	特記事項
1	保育日誌、個人の記録簿は適切に記載し保管している	A	
2	園内で知り得た事柄については外部には絶対に漏らさない	A	
3	金銭などを取り扱う場合は適切に処理を行っている	A	
4	毎日の体調管理に心がけている	A	

評価項目	総 評
I. 保育の理念と実践に係る観点	<p>こども一人ひとりの気持ちや育ちに寄り添った丁寧な保育が実践されている。日々の遊びや生活の中では、こども自身が興味や関心をもとに主体的に関わり、友だちとの対話や試行錯誤を重ねながら遊びを深めていく姿が見られる。ドキュメンテーションを振り返りの機会を活用し、自分たちの経験を共有しながら「次はどうしたいか」「どんなことに挑戦したいか」を考える過程を大切にしている点は評価できる。一方で、こども主体の保育を進める中で、職員によって実践や捉え方に差が見られる場面もあり、指導保育と異なる難しさを感じている職員もいる。今後は、具体的な援助のあり方や環境構成について実践を通して学び合い、対話を重ねながら共通理解を深めていくことで、園全体としてより安定した保育実践につながることを期待される。</p>
II. 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点	<p>保育参加や保護者参観を実施し、保育の様子を積極的に公開することで、開かれた園づくりに努めている。実際にこどもたちの生活や遊びの姿、保育者の関わりに触れてもらうことで、園の理念や保育内容への理解を深める機会となっている。また、ドキュメンテーション等を活用し、こどもの育ちや遊びの過程を可視化することで、保護者と成長の喜びを共有できるよう工夫している。</p> <p>さらに、子育て支援の一環として子育て文庫を開設し、子育てのヒントになる環境づくりを進めている。保護者が抱える子育ての悩みや不安に対しても丁寧に寄り添い、対話を重ねながら一緒に考えていく姿勢を大切にしている。</p>
III. 保育の実施運営・体制全般に係る観点	<p>保育カンファレンスや委員会活動を通して通常保育では関わる機会の少ない職員とも積極的に対話の場を設け、互いの保育観を高め合っている。また、各役割を明確にしながら、安全衛生・食育・発達支援・研修・環境整備等の課題について継続的に協議を行い、園全体で課題意識を共有しながら改善につなげている。会議内容や保育方針については非正規職員にも共有し、園全体で共通理解を図るよう努めている。</p> <p>一方で、共有された内容を日々の実践へ十分につなげていくことには課題も見られるため、今後は職員一人ひとりが具体的な保育実践として落とし込めるよう、継続的な対話や振り返りを重ねながら、より実践的な学びにつなげていくことが期待される。</p>
今後に向けて	
<p>今年度も、こどもの「やってみたい」という意欲を大切にしながら保育を進めてきた。大阪・関西万博をきっかけとして、国や世界の食文化や暮らし、文化の違いに興味を持ち、遊びや対話を通して主体的に学びを深めていく姿が見られた。遊びの中だけでなく、給食やクッキング活動などを通して実際に食材に触れたり味わったりする経験を重ねることで、味覚や嗅覚といった五感を活かした食育にもつながっている。異なる国の食文化に触れる中で、「食べてみたい」「作ってみたい」といった意欲が広がり、食への関心や楽しさを感じる姿が見られた。</p> <p>また、日々の散歩の中で落ちているゴミの多さに気付き、「なぜゴミが増えるのか」「どうしたら減らせるのか」といった社会課題にも関心を広げていった。探究を深める中で、リデュースやリサイクルなど物を大切にする考え方を知り、廃材や端材を活用しながら、ミシンや手縫いを用いて自分だけの衣装づくりへと発展していった。完成した衣装を身に付けて行ったファッションショーでは、こどもたちが互いの表現を認め合い、自信を持って発表する姿が見られた。</p> <p>今後も、こどもの身近な気付きや疑問を出発点としながら、遊びや生活を通して社会や環境、多様な価値観への関心を深め、自ら考え行動する力につながる保育を大切にしていきたい。</p>	